

令和元年度第1回一宮市子ども読書活動推進懇話会・会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和元年8月7日（水）午前10時～11時45分
- 2 開催場所 中央図書館 7階 講座室
- 3 出席者 懇話会委員 10名
事務局職員 8名
- 4 議 題
 - (1) 会長及び副会長の選出について
 - (2) 一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
 - (3) その他
- 5 開 会（事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和（先導は館長）
館長挨拶
懇話会委員・事務局職員自己紹介
- 6 会議録（要旨）

（事務局）事務局より議題（1）について説明。その後会長を互選により選出。副会長は会長の選任にて選出。選出委員は会長席・副会長席に移動。その後、会長が議長となり議事進行。

（会長） 議題（2）について事務局から説明をお願いします。

（事務局）資料に沿って施策体系及び目標値、取り組み状況を説明。

（会長） 会議の進め方について、事務局側へ確認。

（事務局）事務局関係の質問は本日回答しますが、他部局部分の質問は、次回、10月中旬開催の当会議と推進会議との合同会議で回答させていただきます。

（委員） 課題図書の見出し感想文で、提出方法が変わりましたか。

（委員） 今年から自由応募という形となりました。小中学校には毎年多くの部署から作文や習字、ポスター等の応募依頼があります。子どもの負担も考え変わりましたが、決して読書から手を抜くということではありません。

（館長） 補足をさせていただきますが、これまで行政側から学校側へ取り扱いの全てをお願いしていましたが、今年から担当業務の見直しを行っており、この変化も影響していると思われます。

（委員） 毎年、学校側の図書館担当では、おすすめ本の夏号、冬号を出しています。中央図書館と連携を図り、6、7月初旬に課題図書の情報が入ればすぐに伝え、図書館側では夏休みにすぐ借りられるように準備していただいています。これが学校ではとても助かっています。

（会長） 資料の数字で驚いたのですが、尾西図書館のおはなし会のボランティアさんですが年間96回開催され、1,067名の参加者があります。これだけの数字を計上してみえますが、何名の会員がおみえになりますか。

（事務局） 24名です。

（会長） 年間96回ということは、月に8回ですね。

（事務局） 24名の方が4つのグループに分かれ、1つのグループが土日を連続して担当してみえます。グループの中で2、3名の2つのグループを作り、土日を分担していただいています。各グループは午後2時から30分、活動していただいています。

- (会長) たとえ30分でも時間に拘束されます。とても大変なことだと思います。このようなボランティアさんが、一宮には何名ぐらいみえますか。
- (委員) 17グループ、174名です。2、3名のグループやダブってメンバー登録している方もみえますが、大小様々です。
- (会長) ボランティアグループのための講演会の開催費用が前年に比べ減ったのですが、この辺りについては事務局側に頑張っていたきたいと思います。
- (事務局) 財政担当から毎年の予算編成で、予算削減という課題があります。この捻出の中で、講演会を廃止対象とされないよう、いかに維持していくかを工夫しています。ボランティアグループの方174名に加え、図書館以外の学校などで活動されてみえるボランティアさんや学校司書さん、児童館や児童クラブで活動してみえる方などにも参加をいただき、継続意義を示し維持していきたいと考えています。
- (会長) 職員の研修で参加が1名とあります。市内に4館ありますので、せめて2名は参加すべきと思います。
- (事務局) 予算の許す範囲内で対応していきます。
- (会長) 「子ども読書のまち」を宣言した都市ですので、職員・ボランティアさんの資質の向上は必要と思います。
- (事務局) 予算以外に主催者側の各館への割り当てもあります。しかしながら予算内での参加となります。参加した職員が持ち帰った資料は、全館職員で共有しフィードバックしています。
- (委員) 前回の宿題で学校のボランティアの方は何名ぐらいいますかという質問がありましたが、少ないところでは10名弱、多いところでは3、40名です。学校では子どもが卒業するとボランティアを辞めてしまう方も多いのですが、未就学のお子さんのお母さんで、時間が合えば一緒にやりたいという方もみえます。先日も赤ちゃんを抱っこしている方で廊下をうろうろしていた方へ声かけをしましたら、どんな感じか見に来ましたということで、今できなくてもお子さんから手が離れ時間ができたら、勉強し活動してみたいとのことでした。これからも声かけをし、盛り上げていきたいと思います。
- (事務局) ボランティアさんへの講演会・講座ですが、講師の方がある程度決まったところで、学校教育課にも相談させていただき、学校ボランティアさんの参加を促していきたいと思います。終了後に講師と各ボランティアさんの情報交換会も行い、現在未実施のところの実施につながれば、大きな一歩と考えています。
- (委員) ブックスタートのフォローアップを図書館ボランティアが担っているという自覚があります。読み聞かせ会への参加の方からブックスタートでの説明を聞き本日やってきましたとの声をよく聞きます。その中でお子さんが小学校に入った時に、絵本から児童書へ移る段階が難しいという話をよく聞きます。予算のこともありますが、「2分の1ハタチ」というのもどうかと思います。次に繋げていくにはどうしたらいいのか、図書館としてどのように考えてみえるのか伺います。
- (事務局) 絵本から本に変わるときには、他の誘惑がどうしてもあります。ゲームやスマートフォンなど様々ですが、予算を使わず、どうやって子どもたちに本に向かわせるかとなると、その子が面白いと思う本を見つけられればと思います。本をよく読む子たちに、どうしたら面白い本を見つけられるのかを聞いたところ、ここからここまでの書架の本を片っ端から読んでいくという子がいました。全部読んだら次はこ

こへという子もいました。他にたまたま図書館に行き、魅力的な本に出会いそれが面白い本だった。それから引き込まれ2週間に1回図書館へ行くようになり、行かなくなると気持ち悪いということを行っている子もいました。先日、全国のテストで愛知県が最下位だったということで、県の指導主事さんも漢字を覚えるときに読書を習慣づけるということがとても大事だと言ってみえました。ただ、それをどう結び付けていくかというところは、一宮だけでなく県下全体で考えていかなくてはいけないことではありますが、なんとか本の魅力を子どもたちに分かってもらえるような取り組みを考えていきたいと思えます。

(館長) この問題が一番の根幹だと思います。やはり家庭が大きな役割を持っており、子どもが本に触れられる環境があるかということです。無ければ、その役割を学校が担うのですが、そこばかりに頼ってもいけない。ここの部分の解決策が見つければ、読書活動推進計画の目標が達成できるのではないかと考えます。

(委員) ブックスタートのフォローアップでは大人の語りかけが必要と考えます。予算を使わず、言葉だけでやるにはどうしたらよいか。4月のおはなし会の時に子どもたちに参加してもらったのですが、同学年の子が参加するなら見に行こうとか、私も読み聞かせをやってみたいなど、許す限りの中でどんどん声かけを行い、やってもらいました。図書館は居場所の一つとも言われていますが、何かできたらいいかなと考えます。

(委員) 児童館、児童クラブへの除籍本等の配布が72パーセント、82パーセントとありますが、本がいないという理由は何でしょうか。

(事務局) スペースの問題もあります。

(委員) 児童館や児童クラブへ行っている子は、自由な時間が結構ありますので、その時に本が身近にあれば、あそこにあの本があったというきっかけが生まれます。予算がかからない除籍本で効果が生まれると思いますが、中々増えないのはスペースの問題ですか。

(事務局) スペースの問題以外ですが、全施設に配布の案内をしています。辞退との返答があります。そうなりますと、それ以上の案内はしておりません。

(委員) そこで過ごす時間中に1冊でも手に取っていただけたらいいかなと思います。

(委員) 「夏休み小中学生配架応援隊」は何名ぐらいの応募がありましたか。この事業はとも本に興味を持つようになるものと思います。

(事務局) 応募は38名有り、その内各日程で4、5名の参加でした。この事業の中身は配架だけでなく、スタッフのカウンター業務なども行いますので、大勢の募集定員としますとスタッフが対応できませんので、少人数としています。「木曾川図書館見学会」ですが、昨年度から地区の児童館へ職員が出向き、案内チラシを配布しています。その結果、参加人数が増えました。

(会長) 図書館体験の場、機会を拡充する項目ですが、今回の会議では関係部局から様々なお話をいただくと盛り上がりそうな内容だと思います。

(副会長) 子どもたちと本を繋ぐ人というのは大事だと思うんですね。学校図書館には学校司書さんがおられますが、読書活動の支援というのがお仕事の1つであります。出張ビブリオバトルですが、図書館の司書さんが、学校司書さんと力を合わせ、実施していくという試みはされているのでしょうか。

(事務局) 協力して実施しています。また「子ども司書講座」の中では、各市立図書館や各学

校での実習、おはなし会の実習体験もしています。出張ビブリオバトルほどではないですが、学校司書さんや先生との関わりもあります。

(委員) 私は名古屋市立図書館のボランティアをさせていただいておりますが、その司書さんがビブリオバトルがすごい素敵だったとお褒めの言葉をいただきましたのでお知らせします。

(会長) これは賞をいただいたのですよね。

(事務局) 去年ですが、ビブリオバトル実行委員会から、秋に行うミニビブリオバトル以外に学校で出張ビブリオバトル講座をやっていることが評価され、優秀賞をいただきました。

(会長) 受賞したことで、“一宮のビブリオバトル”ということで知られているのかもしれませんが。

(副会長) 一宮に外国籍のお子さんほどのくらいみえるのでしょうか。中央図書館には、i i a という国際交流協会の方が外国語の絵本を読むという活動をされてみえますが、私の近所のスーパーには外国の方が増えてきました。そのお子さんと本の繋がりはどうかなと思っています。

(館長) 市民課で出している年齢区分の資料で把握はできると思いますが、それ以外に学校へ通ってみえる人数が把握できると思います。

(委員) 日本語の指導員が外国の児童に付き添う制度があり、本校も取り入れています。20名ほどいます。日本語の理解度で数字も変わってきます。

(会長) 外国語の絵本の蔵書は、学校図書館ではどうでしょうか。

(事務局) 無いと思います。

(会長) 図書館の蔵書を送るなど連携はできますよね。

(事務局) 言語別ではありませんが、洋書の児童書は図書館全体で3,600冊ほどあります。

(委員) 日本人向けの挨拶などの英語本は、学校図書館にあってもおかしくないと思います。

(副会長) 以前、テレビで東京の大久保地区の図書館が取り上げられていましたが、多くの外国人が住んでおられる地域で、その民間出身の館長さんは、母国語の絵本をお母さんが読む中で、日本語の習得も行っていく場を設けている様子を取り上げられていました。一宮ではどうかなと思い触れさせていただきました。

(委員) 特別支援の子どもたちの蔵書冊数はどうでしょうか。

(会長) 点字やDAISYなども含めると良いと思います。DAISYの配置状況はどうですか。

(事務局) 中央図書館だけです。再生機器もあります。

(会長) それでは議題2につきましては、ここで終了させていただきます。次に議題3について、事務局からお願いします。

(事務局) 次回の子ども読書活動推進懇話会の開催につきましては、子ども読書活動推進会議との合同会議となります。日程は10月中旬頃、会場は中央図書館を予定しております。詳細は改めてご連絡いたします。

(会長) 本日の議題はすべて終了しました。長時間のご審議をいただきありがとうございます。